

関係者限り

主に福井県の住民が利用する 京都府内の避難退域時検査場所の追加候補地 について（長谷運動広場）

内閣府政策統括官(原子力防災)付
広域的な原子力災害に関するWG(福井エリア)
高浜地域分科会

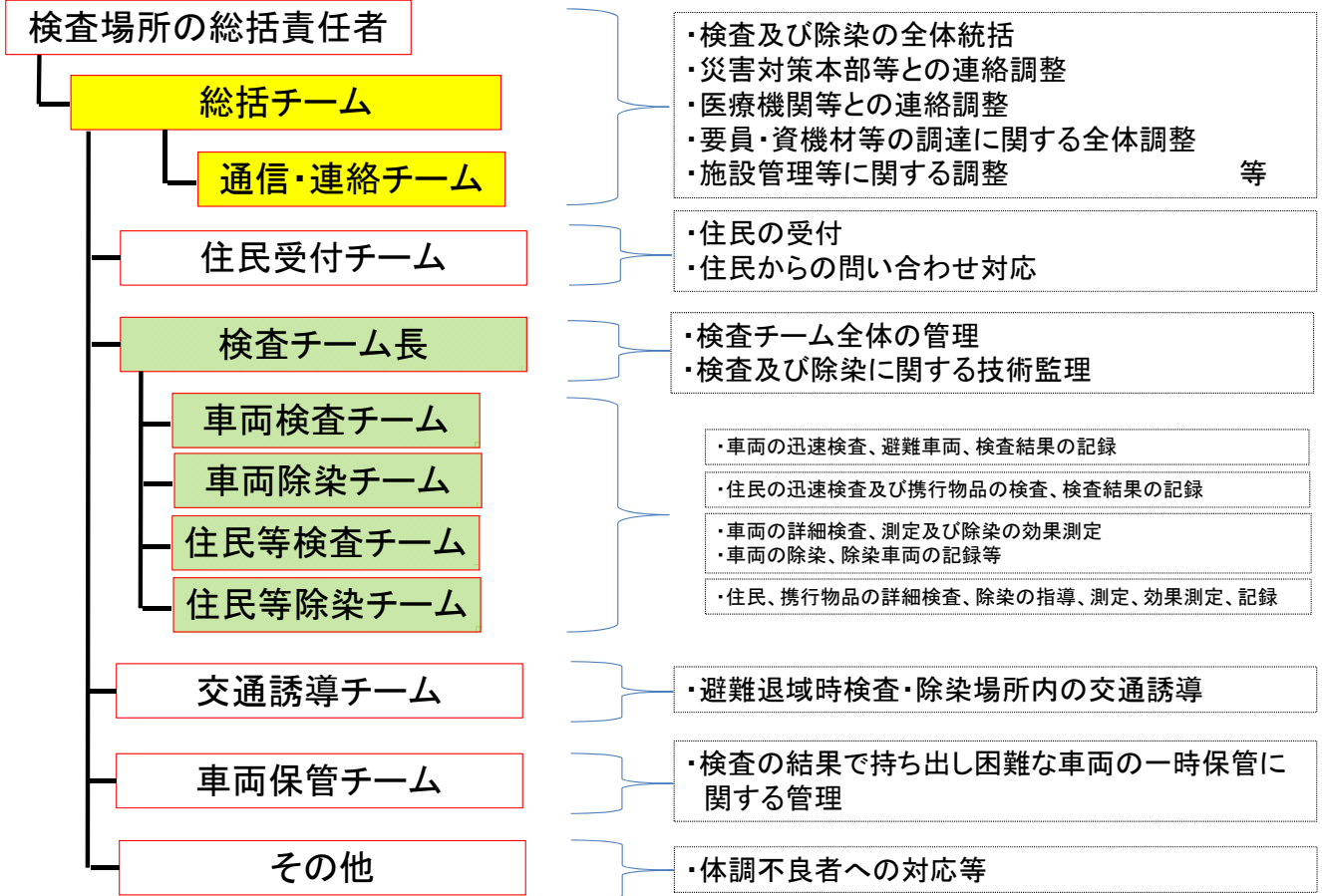
検討対象の避難退域時検査場所

・福井県の住民避難のために利用する京都府内の避難退域時検査場所候補地の概要は下記のとおり。

検査場所	所在地	避難元市町	検査場所の想定対応能力 (追加検討イメージ:詳細は次頁以降)	総流入 予測台数	ピーク時の 流入予測台数	備考
①綾部PA(あやべ球場)	綾部市	高浜町、おおい町	約1200~1400台/時	1,342台	1,115台/時	京都府内の 設定候補地
②長谷運動広場	南丹市	おおい町	約220~240台/時	426台	402台/時	京都府内の 設定候補地

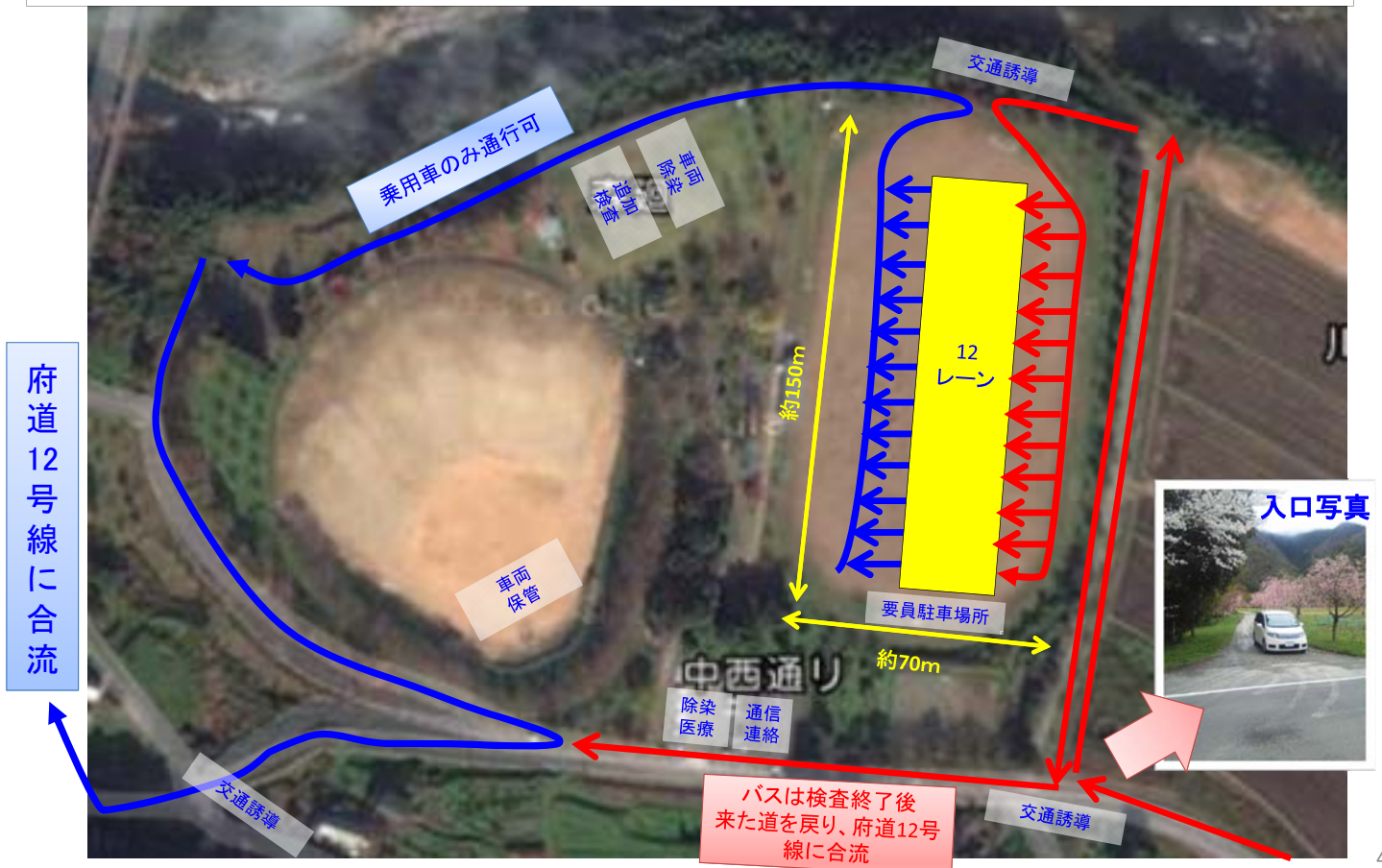


- 避難退域時検査等を行う際の体制、役割、及び標準的な要員数をもとに、追加設定候補地における想定の体制は以下のとおり。



美山長谷運動広場（南丹市）におけるレイアウトイメージ

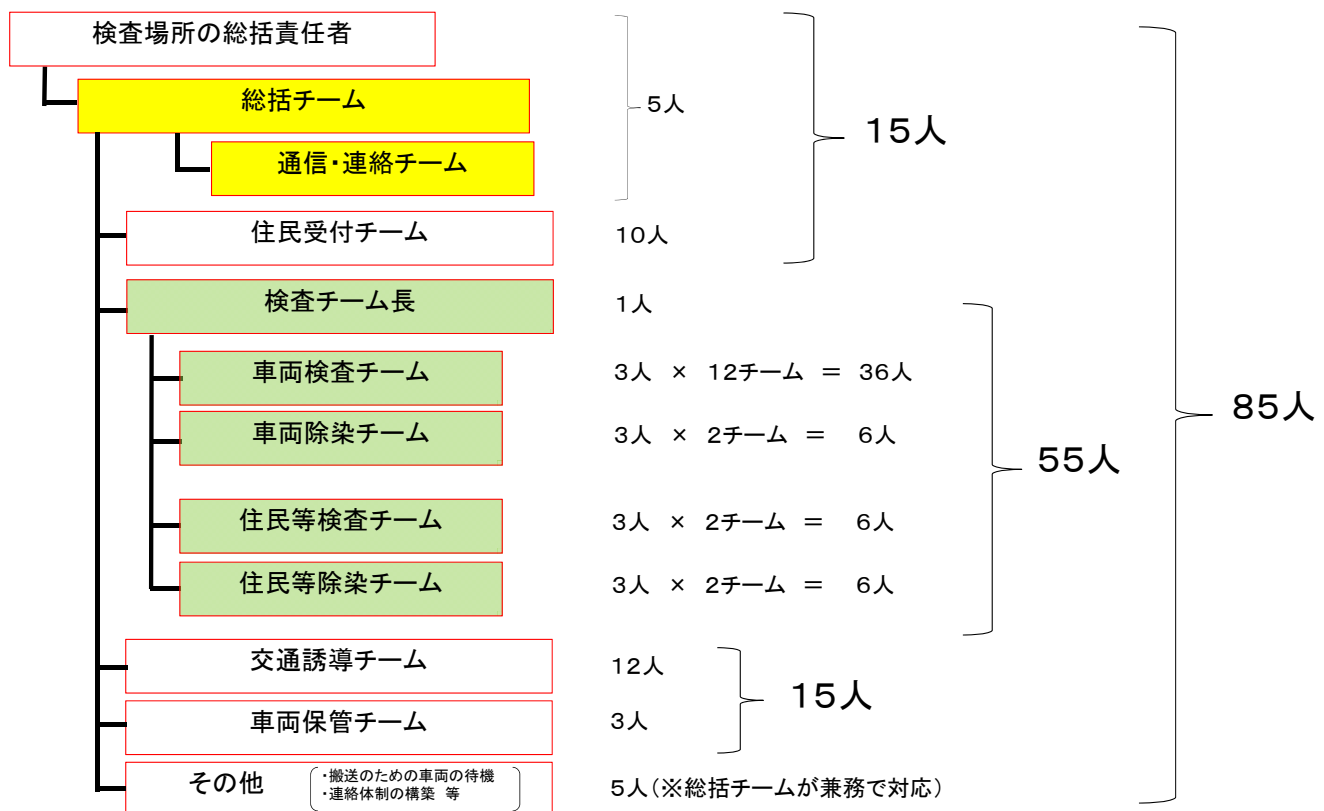
- 美山長谷運動広場では、敷地の面積等を考慮したところ、合計で12レーンの避難退域時検査の体制を組むことが可能であり、時間あたり240台の対応能力を備えることができる。





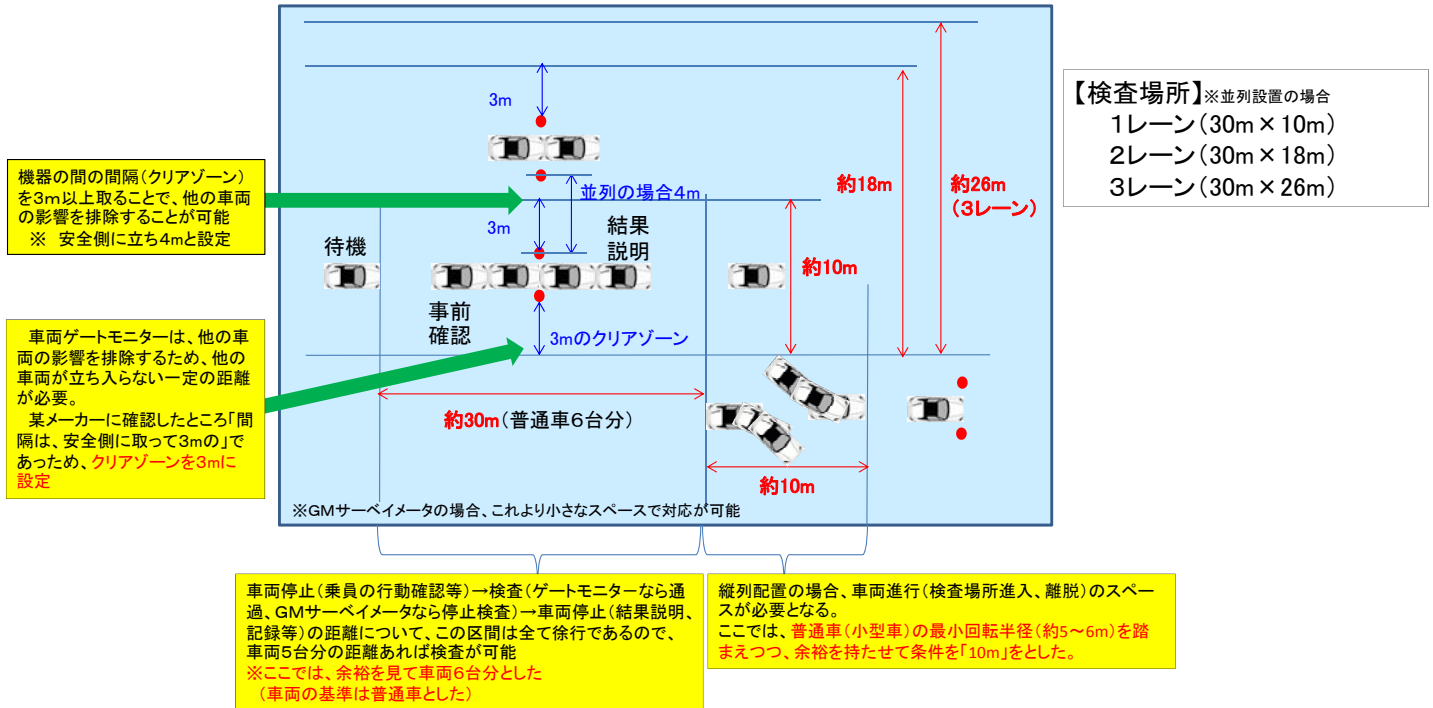
美山長谷運動広場における運用体制の試算

- 車両の避難退域時検査において、12レーン運用での検査に加え、除染(人、車)2チーム、住民検査(車両検査にて検査が必要となった者に対する検査)2チームを設定すると想定し、かつ交通整理などの要員を積み上げた結果、85人体制の確保が必要。



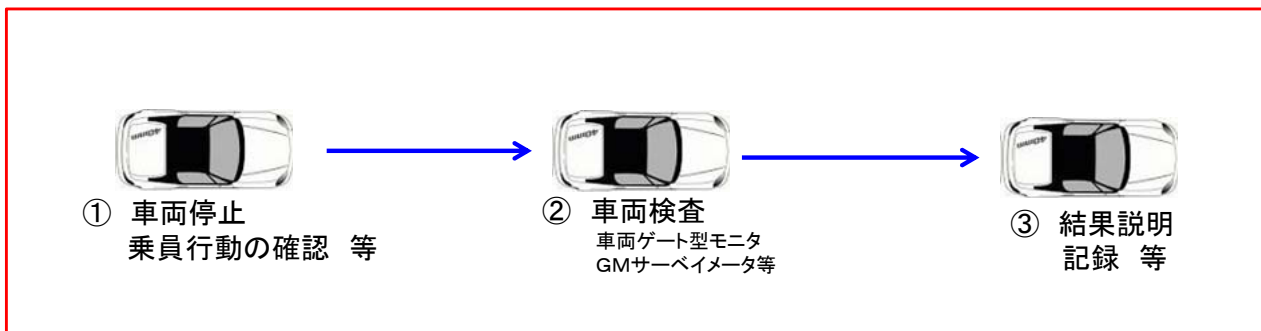
(参考) 検査場所の対応容量に関する考え方① (検査場所)

- 避難退域時検査場所が緊急時にどのくらいの処理能力を持ちうるかについては、場所を多く取るゲード型モニタの設置を前提に、現場の状況や視察結果などを踏まえて個別に設定。



上記のイメージをもとに、現場確認の上、設置可能レーン数を決定し、避難退域時検査場所のクラス分けを実施。

(参考) 検査場所の対応容量に関する考え方② (車両検査の処理能力)



上記の一連の検査について、約3分を目途として行うこととなる(GMサーベイメータの場合)

- 通常、前車の結果説明(③)の際に、後車の乗員確認(①)が並行して行われるなど、効率的に行うこととなるが、条件設定は「1台3分かかるもの」として算定
- よって、1台3分の場合、1時間あたり20台対応が可能であるため、
20台/時 × 設定レーン数
を、退域時検査場所の対応能力として設定。
- また、グループ化した検査場所を同時に設定した場合(解析条件とした場合)は、グループ化した場合のランクに応じて対応できるとの条件を付加する。